

「自他の生命を尊重し、主体的に地域社会に関わり危険を予測・回避し安全な生活を送るための知識・技能を身につけ、適切な判断と行動がとれる生徒の育成 ～自分の命、他者の命を大切にする生徒の育成～」

令和4年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

南国市教育委員会 拠点校 南国市立香南中学校

1 事業の目標

（1）モデル地域の現状及び安全上の課題

南国市は高知市に隣接しており、南は太平洋に面している南北に長い市である。沿岸地域、山間地域、市街地と様々な条件下に学校が設置されており、地域によりそれぞれ地震後の2次災害、その他の自然災害に対してそれぞれ地域の特色に合った備えが必要である。

香南中学校は、校区の南が太平洋に面し、東は物部川に隣接しており、津波による浸水、液状化現象だけでなく、豪雨による物部川の決壊等が想定される。しかし、津波災害が予想されている大湊小校区、津波被害の少ない日章校区の両小学校区では、防災に対して地域間、世代間での意識にばらつきがある。

（2）モデル地域の事業目標

高知県における防災教育の目的である「最強クラスの南海トラフの巨大地震が、いどこで発生しても、子どもたちを一人も死なせない」ために、学校が各地域、各世代をつなぐ役割を担い、地域とともに防災意識、防災力を高めていく。そのために次の2点を行う。

- ① 南海トラフ地震に伴う津波や、豪雨による洪水被害などの災害に備え、学校での防災教育の充実を図る。
- ② 地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実を図るための取組を企画し、実施する。取組をリードしていく拠点校として、南国市立香南中学校は先進的でモデルとなる防災教育を、中学校区の各学校や地域等と連携しながら深めていく。

2 モデル地域の取組の概要

（1）安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

- ① 生徒・保護者を対象とした防災意識調査アンケートの実施（2回）
- ② 行政や自主防災組織との連携（HUG, 防災士養成, 小中連携避難訓練）
- ③ 効果的な避難訓練の実施（年9回）



イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

生徒・保護者を対象とした年2回のアンケートをとり、その結果から評価・検証をしていく。

（2）組織的取組による安全管理の充実に関する取組

- ・南国市防災教育研修会の学びを活かし、危機管理マニュアルの見直しを行った。
- ・日章地区自主防災協議会の会合に3回出席し、小中合同避難訓練に向けて調整を行った。
- ・12月3日（土）に、防災教育研究発表会を開催し、3年生の授業公開と、これまでの学びを公開した。



(3) 学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

5月20日(金)に高知大学の岡村眞教授をお招きし、避難訓練の様子を見ていただき、訓練の講評もいただいた。そして、全校生徒を対象に「地域の災害と中学生としての意思と役割」と題して講演をしていただいた。また、同日に行われた南国市防災教育研修会では、各校が持ち寄った危機管理マニュアルの見直しを行い、防災意識の向上に努め安全教育に関する指導力の向上を図った。



(4) その他の主な取組について

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本市からの宮城県岩沼市への派遣が見送られた。しかし、感染状況の落ち着きが見られた10月に、岩沼市から訪問団が来校した。短い時間ではあったが、互いの交流と学びを共有し、当時の様子や先進的な防災の取組について学ぶことができた。



3 拠点校の取組

(1) 拠点校の目標

近い将来発生する南海トラフ地震がいつ発生しても、自分の命を自分で守ることができる知識と対応力を生徒に身につけさせることが本校でも急務である。そのための取組を公開授業や実践発表等で情報発信し、地域の防災に対するベクトルを合わせていけるように、推進体制を構築する。

(2) 具体的な取組

① 生徒・保護者を対象とした、防災アンケートを4月、11月の2回実施し、成果と課題を検証。

② 様々な状況を想定した効果的な避難訓練の実施。(9回)

③ 地域の自主防災組織と連携し、小中学校区合同の避難訓練の実施。(9回中の2回)

④ 防災士資格取得

①避難訓練一覧表(地震・津波・洪水・火災)

想定 時期 (事前周知)	ねらい	月日 (曜日)
1 地震 昼休み(有)	地震を想定して、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。	5月20日 (金)
2 地震, 津波 休日【小中合同避難訓練(有)】	大湊防災デーに合わせて、大湊小学校校区の生徒が参加。地域の一員として、できることを考え行動に移す。	5月28日 (土)
3 地震 授業中(無)	事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。	6月15日 (水)
4 地震 掃除中(無)	事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。また、防災食の実食を行う。	7月20日 (水)
5 地震 授業中(無)	事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。	9月1日 (木)
6 地震 放課後【引き渡し訓練(有)】	災害等を想定して、確実な生徒の引き渡し・引き取りができるようにする。	10月8日 (土)
7 地震 授業中(無) 大雨, 洪水 昼休み(有)	緊急地震速報の全国的な訓練に合わせて実施。事前の周知がなくても、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。 洪水を想定して、迅速、冷静かつ安全に、生命を守る行動・知識を習得する。また、非常持ち出し袋の確認をおこなう。	11月2日 (水)
8 地震, 津波 登校途中(有)	自分たちが住んでいる地域の避難所を知り、また通学途中で発生した場合に最寄りの避難所を知る。また地域の一員として、できることを考え行動に移す。	11月6日 (日)
9 火災 昼休み(無)	理科室で火災が発生。迅速かつ冷静に避難することができる。また、教職員の初期消火や非常持ち出し袋等の確認を行う。	12月9日 (金)

⑤ 授業実践

1年 地域を知ろう（総合的な学習の時間）

安心安全は私たちの手の中に！～もしもの時の逃げマップ～

2年 防災について考えよう（英語）

南海トラフ大地震が起きた！この状況で、あなたはどう行動するか考えよう。
また、災害が起こる前にできることは、ないか考えよう。

3年 地域に貢献しよう（総合的な学習の時間）

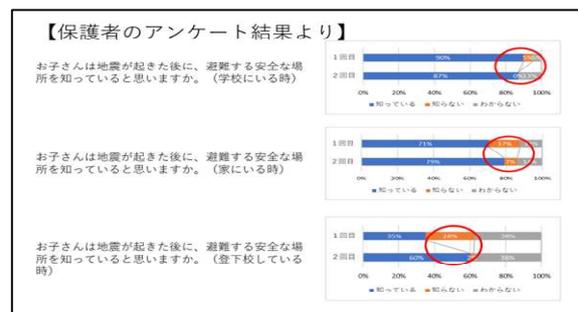
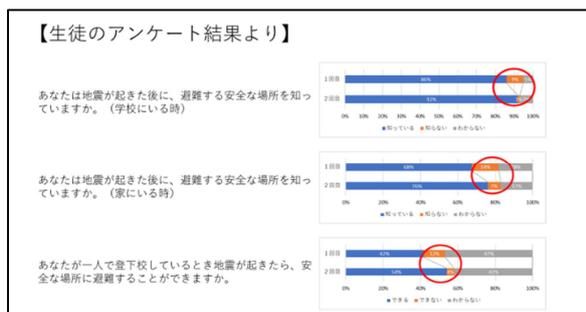
地域の防災ー地域の方を守るのに私たちができること



(3) 取組における成果と課題

○防災意識調査アンケートの結果から（4月、11月に実施）

地震に対する意識

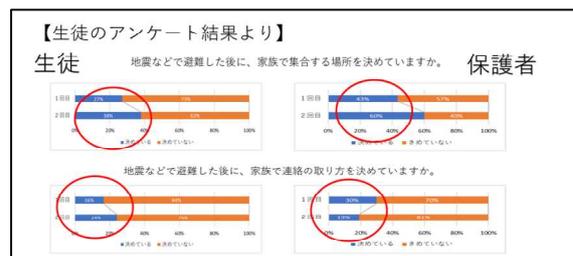


4月からの取組を通して、成果として考えられる項目に、「避難する安全な場所を知っているか」がある。避難訓練を繰り返してきたことや、学習を積み上げたことで、「知らない」が減少している。特に、「登下校中に避難する安全な場所を知っていますか」については、地域の自主防災組織と連携して、小中合同避難訓練を実施したことで、どこに避難場所があるかわかり、「知らない」の割合が減少したものと思われる。この傾向は保護者のアンケート結果からも読み取ることができ、今回の取組の成果と考えられる。

課題として、学習や9回に及ぶ避難訓練によって、安全な場所がどこなのか理解はできている。しかし、「わからない」と考えている生徒や保護者が一定数存在している。特に登下校中に南海トラフ地震が発生した場合には、『その時になってみないとわからない』という不安の表れではないかと考えられる。

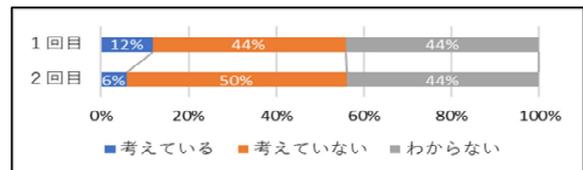
家族との話し合い

成果として、4月からの取り組みを通して、家族との集合場所や連絡方法について2回目のアンケートで数値が向上している。しかし、生徒の結果を見ると、4割にも満たない結果となっている。また、家族との連絡の取り方について、生徒と保護者の間にずれが生じていることが課題として挙げられる。



地域との連携

「地震発生後に、周りの方の安全のために何かできることを考えていますか」の項目について、保護者の回答をみると、地域をあげて防災活動に取り組む際の「弱み」と言える。また、このアンケート結果から、周囲の住民と「協働」しての防災意識の向上と、役割を明確にもっていないことが課題として考えられる。



4 事業の成果と課題 (○成果、●課題)

- 年間を通して、計画されていた避難訓練を予定通りに実施することができた。また、生徒の行動も素早く安全を確保することができており、繰り返し行ってきたことで、望ましい行動が、自然と身についてきているものと思われる。
- 本校は特認校として、英語教育と防災を柱に学校運営を行っている。その中で、防災士資格取得に取り組み、受検した半数以上が合格する実績を残せた。
- 小中合同避難訓練を実施するにあたり、地域の自主防災組織との連携を深めることができた。
- アンケート結果からも地震への理解や避難に関する知識が改善している。
- 地域の自主防災組織との連携を深めるための核として、資格の取得に留まらず、中学生防災士として、生徒が企画する避難訓練や避難所設営訓練などの取組を進めていく必要がある。
- 地震で避難した後に、家族と集合する場所を決めていたり、連絡方法を決めたりしている家庭は、1回目のアンケートより改善しているが、全体として4割にも満たない数字となっており、啓発活動に努めなければならない。
- アンケートにおいて、「地震発生後に周囲の人の安全のために何かできるか」について、肯定的な回答が少なく、地域の横の繋がりを強めていく必要がある。

5 今後の取組の見通し

地域の拠点校として、地域や保護者と連携しながらさらに取組を進めていく。

- 中学生防災士の活動として、家庭内の防災力の向上。避難所開設訓練などで、地域の自主防災組織と連携した活動。
- 災害時の連絡方法の確認（災害用伝言ダイヤルの活用）。
- 地震に対する訓練を中心に、今回取り組めなかった災害に対する訓練の実施。
- 防災に関する学習で得た成果を、地域に発信していく。